



イタリア、ベネチアのゴンドラに乗って

だが、アツと言う間の二年間でもあった。初年度は、アメリカでの授業の進め方について良く分かっておらず、アメリカ人でも通常週三〜四科目のところ、週六科目を履修し、毎週の課題と週末のレポート作成には時間的に苦労した。日常の英語には不自由を感じていなかったが、やはり読書が追いつかず、毎夜午前二時ごろまで勉学に費やした。しかし、今ではネイティブ並みのスピードがいたのではないかと思う。そんな中でも週末には、パーティーに参加したり、上述のお世話になった台湾人グルー

プとも交流を続け、休暇時には高校時代のホスト・ファミリーをオハイオまで訪ねたり、ホスト・シスターの結婚式にも参列したり、充実した日々を送ることができた。また、専門の言語学以外にも、世界的に有名なホテル観光学科のワイン・テイスティングのコースや、レクリエーション体育で乗馬や射撃等、日本では体験できない科目を履修・聴講した。このような機会を与えてくれた石坂財団および日本万国博覧会記念機構には大変感謝している。

### 👉 援助いただいた二年間を経て

援助いただいた二年間も終わるころ、コーネル大学のフェローシップとティーチング・アシスタント等も確約され、学位取得まで留学を続けさせてもらえることとなったが、指導主任のジョン・ホイットマン教授がサバティカルで一年間日本に滞在されることとなり、私自身はコーネル大学と単位交換制度のあるマサチューセッツ工科大学で滞在研究生として一年間過ごすこととなった。マサチューセッツ工科大学の言語・哲学科では、私の専門とする理論の創始者でもあるノーム・チョムスキー教授の講義を直接、ナマで受講する機会を得た。

時期もちょうど理論の転換期でもあり、現在の研究にも非常に有意義な時間を過ごしたと思う。

一年後、コーネル大学に戻り、博士論文の構想もまともに、研究中心の生活を送った。滞米生活も博士号取得に標準的な五年目を迎え、その後のことも考え始めなければならず、欧米を含め日本国内の大学での教育・研究職に応募したが、欧米においては博士号取得予定では既取得者とは勝負にならず、国内の募集はほとんどが英語教育関係しかなかった。経歴上、「英語」が専門ではなかったため、数十カ所も応募したなか、ようやく現在の勤務先に職を得た。

### 👉 帰国後も波瀾万丈

文系育ちとして、工業系大学でアメリカ生活以上？のカルチャー・ショックを受けながら早くも一〇年以上が過ぎたが、帰国後も年数回は国際学会での発表等で海外に出られるように研究に励んでいる。欧米だけでなく中南米やアジア・アフリカ等にも発表の機会を得てきた。滞在先での病気やスーツケースの遅延による場違いな服装での発表、白タク運転手との口論等々、今では何があっても動じない気がする。

# 波瀾万丈 留学体験

一九九二年国際文化教育交流財団奨学生として米国コーネル大学大学院留学。九四年京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得満期退学、マサチューセッツ工科大学滞在研究生。九八年九州工業大学情報工学部専任講師。二〇〇〇年コーネル大学PhD(言語学専攻)。二〇〇一年より現職。

九州工業大学大学院  
情報工学研究院／生命体工学研究科准教授

豊島孝之  
とよしま たかし

修士論文審査も終わり、一息ついているとき、大学の掲示板で国際文化教育交流財団(石坂財団)奨学生募集のポスターを目にした。分野を問わず、二年間の奨学制度は他より魅力的に映った。折しも研究室の先輩たちが海外留学より一時帰国し、アメリカでの大学院教育について羨ましく思っていた頃である。全国で五名と難関ではあるが、指導教授にお願いし、推薦状をいただいで応募したのが一九年前である。高校時代に交換留学により一年間のアメリカ滞在経験はあるものの、大学院レベルでの学業・研究を中心とした一人暮らしに向けて、緊張して面接に臨んだのを覚えている。

## ▶ 留学生生活開始まで

まさか採用されるとは思ってもいなかった

たので、留学先への受験手続きもしておらず、その後も財団事務局の方々からGRE<sup>(注)</sup>やTOEFLの受験手続き等、いろいろと援助いただいた。希望の留学先もほとんどが募集を締め切っており、前年に国内学会で面識を得たコーネル大学の日本語研究で著名なジョン・ホイットマン教授に国際電話で直談判。翌日には受入承諾をいただいた。渡航時期も迫り、財団からはアメリカでの入学前英語研修への参加案内があったが、学部時代の専門であるスペイン語の研修を認められ、アメリカでの授業が始まるまで約一カ月、スペインで過ごした。研修後、コーネル大学のあるニューヨーク州のイサカという町へ向かうJFK空港では置き引きに遭い、手荷物のノート・パソコン、パスポートから大学アパートの契約書まで失

●国際文化教育交流財団は、経団連第二代会長故石坂泰三氏の遺徳を記念し、一九七六年に設立された。これまでに、世界三一カ国の大学・大学院へ一七二名の日本人留学生を派遣するとともに、世界三七カ国四九〇名の外国人留学生への奨学金の供与や講演会等を実施してきている。

い、手元にはクレジット・カードと現金五〇ドル少々。学期開始のオリエンテーションも二日後ということで、取りあえず空港警察に届け、一本遅れの飛行機でイサカへ。

三〇人乗りの揺れるプロペラ機の中で、隣席の女性に空港近くで安いモーテルでもないかと尋ねると、泊まるあてもなく何をしにイサカなんかに行くのかと逆に聞かれる始末。事情を話すと、その女性は台湾からの留学生で、コーネル大学で食品科学を専攻しているとのこと。ソファアでよかつたらアパートに泊めてくれるとの有り難い申し出をもらった。時差ボケも手伝い、熟睡し、目を覚ましたときには、彼女が大学に問い合わせ、アパート名からアパートの部屋番号まで調べてくれていた。

## ▶ アットホームな二年間

そんな波瀾の留学生活のスタートであつ